

ヒグマによる人身事故発生状況

2018年3例目

項目	内 容	
概 要	キノコ採り中の男性がクマと遭遇し、左額と左肩を負傷（命に別状なし）。	
発生日時	平成30年10月11日 午後2時30分頃	
発生場所及び付近状況	住 所	八雲町栄浜
	付近の状況	発生場所は、国道から約 1,400m離れた山林。東側がスギ林、西側が広葉樹で覆われているが、林床植生は低く、見通しは良い状態。
被害者情報	居住市町村	八雲町在住
	年齢・性別 被害の状況	58才・男性 負傷【頭部（額の左側 目の上）に爪による頭蓋骨に達する裂傷】 【左肩（転倒時に打撲）】
	鳴り物の携帯	無（ただし、キノコ採り中は時折大声を発していた）
発生状況	被害者の行動	キノコ採り目的の単独行動
	発生時間帯	日中（午後2時30分頃）
加害個体の特徴	行動形態	単独個体（性別不明）
	痕跡	無
	逃避行動等	事故以降、同個体の付近の出没情報はなく、逃避した模様。
対応状況	加害個体への対応	住民安全確保のための周辺地域でのハンターによるパトロールの実施（10月11日まで）。
	住民への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺中学校の部活動の中止及び一斉下校。 ・翌日の登校時の見守り。 ・広報車の放送による地域住民への注意喚起。 ・振興局による渡島管内市町村にメールで注意喚起。 ・被害現場付近等に注意標識を設置。
考察	発生要因	単独でキノコ採りに出かけ、採集中は時折大声を出して自身の存在を知らせる予防策を実施していたが、襲われた際（帰路）は声を出していなかった。互いに気づかずに突然遭遇した結果、クマの自己防衛のために攻撃されたものと推察。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・キノコ採りへの注意喚起 ・キノコ採りの立ち入り規制
その他	複数人数による行動及び事前に自分の存在を知らしめていれば（声を出す、鳴り物の携帯等）、事故を回避できた可能性が十分ある。	

ヒグマによる人身事故発生状況

2018年2例目

項目	内 容	
発生日時	平成30年4月29日 午前11時頃	
発生場所及び付近状況	住 所	中標津町俣落（またおち）
	付近の状況	発生場所は、市街地から離れた国有林内の沢地近辺。付近の沢地は明るい広葉樹林帯で、ミズナラ・ハンノキ類（胸高直径30cm以下）、アキタブギ、ササ（沢付近の高さ120cm、奥の平地では高さ90cm）が生育し、水音が響く環境。
被害者情報	居住市町村	中標津町在住
	年齢・性別 被害の状況	70才・男性 軽傷（左足大腿部に擦り傷、左右大腿部に打撲傷 等）
	鳴り物の携帯	熊鈴（馬鈴）、爆竹、ロケット花火
発生状況	被害者の行動	山菜採り目的の単独行動
	発生時間帯	日中（午前）
加害個体の特徴	行動形態	<ul style="list-style-type: none"> ・3頭（満2歳2頭連れの親子の可能性大） ・3頭はいずれも同じくらいのサイズ。うち1頭は背中が茶色。
	痕跡	—
	逃避行動等	被害者に接触後、即座に逃走した模様。
対応状況	加害個体への対応	地元猟友会による巡回。
	住民への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・事故現場に通じる林道入口に注意喚起看板設置（1基：設置期間20日間）。 ・地域住民へのファクシミリと地元ラジオ局による注意喚起。
考察	発生要因	<p>単独で山菜採りをしていたところ、爆竹等を鳴らすことによる予防策を実施していたが、爆竹を鳴らす頻度が低かったことや、沢の水音が響く環境だったため、自身の存在を知らしめるには十分でなかったと推察。</p> <p>また、エゾシカを追跡していたヒグマとエゾシカの間に被害者が入る形となった結果、ヒグマと接触したという事故であり、加害個体が積極的に攻撃したとは考えにくい事例。</p>
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・山菜採りへの注意喚起 ・事故現場周辺の巡視
その他	接触時の状況については、不確実な情報が含まれている可能性あり。	

ヒグマによる人身事故発生状況

2018年1例目

項目	内 容	
発生日時	平成30年4月20日 午後4時頃	
発生場所及び付近状況	住 所	函館市鉄山町
	付近の状況	発生場所は、道道から約250m離れた山林。被害者は、ミズナラ等の広葉樹の二次林の斜面で襲われており、林床にはハイイヌガヤ、クマイザサ、ギョウジャニンニク等がまばらに生育。
被害者情報	居住市町村	函館市在住
	年齢・性別 被害の状況	66才・男性 軽傷（頭部（額の左側 目の上）に爪による裂傷）
	鳴り物の携帯	爆竹（その他の鳴り物はなし）
発生状況	被害者の行動	山菜採り（ギョウジャニンニク）目的の単独行動
	発生時間帯	日中（午後）
加害個体の特徴	行動形態	メス（1頭連れの親子）
	痕跡	<ul style="list-style-type: none"> ・わずかに子グマらしき足跡を発見。 ・現場近くの立木でかなり古いと思われる体毛を確認。
	逃避行動等	ハンターによる搜索の結果、付近には見当たらず、逃避した模様。
対応状況	加害個体への対応	ハンターによる加害個体の搜索（4月21日まで）
	住民への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・入林規制（当該現場につながる橋を通行止め（警察）） ・地域住民や入林者に対し、携帯電話へのメールやチラシ等による注意喚起 ・事故現場付近に注意喚起看板設置（5基） ・周辺地域の主な入山口にも注意喚起看板設置（4基）
考察	発生要因	単独で山菜採りをしていたところ、爆竹を鳴らすことによって、自身の存在を知らせる予防策を実施していたが、襲われる30分前以降は鳴らしていなかった。また、襲われた後に斜面を転落した被害者を加害個体が追いかけてこなかったことから、気づかないうちに子連れの母グマと接近し、子グマを守るための攻撃を受けたものと推察。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域を含む山菜採りへの注意喚起 ・事故現場付近の山菜採りの立入り規制 ・事故現場周辺の巡視及び加害個体の情報収集などの動向把握
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・発生場所付近の出没状況：H28～5件 H29～4件 ・頭部（額の左側 目の上）の爪による裂傷以外に、斜面転落の際に左太ももに木の枝が刺さり、深さ4cmの怪我を負った（加害個体による直接的攻撃でない。）。 	